

『発明は必要の母？』

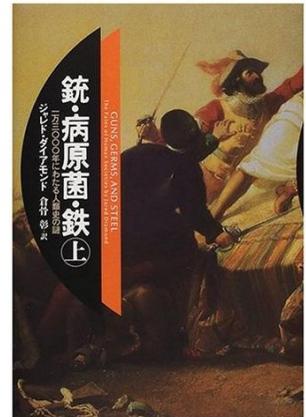
情報文化学部長 森 梅代

この表題を見て、「エッ？」と思う人が多いかもしれない。そう、普通は「必要は発明の母である」といわれているが、この逆転した発想は分子生理学者であり、フィールドワークに基づく進化生物学、生物地理学の研究を進めているジャレル・ダイヤモンドの著作、「銃・病原菌・鉄」のある章の表題である。

発明がどのようにしてなされたかという質問に対して、「必要は発明の母」という格言になぞらえて多くのエピソードが語られている。しかし、実際には多くの発明は人間の好奇心の産物であって、何か特定のものを作り出そうとして生み出されたわけではないというのが彼の主張だ。たとえばエジソンは蓄音機を作り上げたとき、その用途を、遺言の録音、盲人用の本の朗読など10項目を挙げていたが、音楽の録音再生は意図していなかった。録音機をジュークボックスに作り替えて販売する者が登場すると自分の発明品の品位を汚すとして彼は反対していた。エジソンが蓄音機の主要な用途が音楽の録音再生にあることを渋々認めたのは発明から20年たってからだだったという。また1948年にアメリカで発明されたトランジスタ(1947年に日本ですでに発明が報告されていたという説もある)が実用化されるには1954年トランジスタラジオとして発売されるまで待たなければならなかった。アメリカで特許化されていた半導体がなぜ実用化されなかったのだろうか。真空管を使った製品の大量生産に力を入れていたアメリカでは、トランジスタが活用できるという考えはなかった。日本の会社(Sony社の前身)が特許の使用権を買取り、製品化に成功し大量に輸出され、アメリカの製品を席卷し、日本との貿易摩擦の一因ともなったのである。新しい技術が受け入れられるには社会的・経済的要因があり、すぐに有効性が認められる訳ではない。つまり発明された技術が受け容れられ、定着するまでの経過には地理的、歴史的背景が大きく作用しているというのである。

本書の主題は様々な民族がそれぞれ異なる歴史の経路をたどったのはなぜだろうかという人類史最大の謎を明かそうというのである。著者は、この問題を解くに当たって、技術史という視点を導入することで解析しようとしている。技術には、鉄や銃の発明だけではなく、植物の栽培を中心とする農耕や野生動物の家畜化なども含めて考えている。人類史において最後の氷河期が終わった13000年前には、ほとんどが狩猟採集民であり、人々は知的にも経済的にも平等であった。農耕の始まった最も古い記録は、11000年前の南西アジアであり、ここでは最古の文字が発明されている。なぜ早い時期に農耕が始まったところと、そうでないところがあるのか。農耕民として力を得た「持てるもの」が、力を「持たざるもの」に対してなぜ不平等な戦いを展開してきたのか。狩猟採集生活から食料生産の方法が植物の栽培や野生動物の家畜化の進展により大きく変化し、農耕の発展したところで文字が発明されるなど、様々な要因を因果の鎖として結び、政治史ではなく進化生物学や地質学、気候学のように歴史科学として人類史をとらえようとしているのである。なぜヨーロッパ人によってアメリカ先住民やアフリカの人々、オーストラリア・アボリジニが占領され、虐殺されたのか。なぜ富や力が、現在見られるように偏って存在しているのか。人類の主要な歴史は不平等な戦いの歴史でもある。その謎を解く主要な情報は東アジア、太平洋地域が最も多く提供しているという。日本の文化についてもいくつか取り上げられており、歴史の見方として興味深い。

銀河の生成を研究する天文学者も、人間の歴史を研究する歴史学者も、どちらも研究対象を実験室で操作することはできない。しかし、原因と推測される因子の影響が強いものと弱いものを比較検討して大自然の実験から学ぶことができるというのである。たとえば、疫学者が人間に大量の塩を摂取させることはできないが、しかし、すでに塩の摂取量の異なる人々を比較検討して研究することにより、塩分の摂取量と病気の間を明らかにすることができるのである。人類史を歴史科学として確立する上で技術史としてとらえることによって、物事を見るのに多様な視点があるということに気づくことは、私にとって大きな収穫であった。是非、一読をおすすめしたい著作である。



『銃・病原菌・鉄』

—1万3000年にわたる人類の歴史—

ジャレル・ダイヤモンド 著、倉骨 彰 訳
草思社 (初版2000年10月)

目次

- ・発明は必要の母?1
- ・本の紹介2
- ・学ぶ人4
- ・ 세미나紹介5
- ・ 図書情報センターから6



本の紹介



『食品機能の科学と制度』

清水 俊雄 著

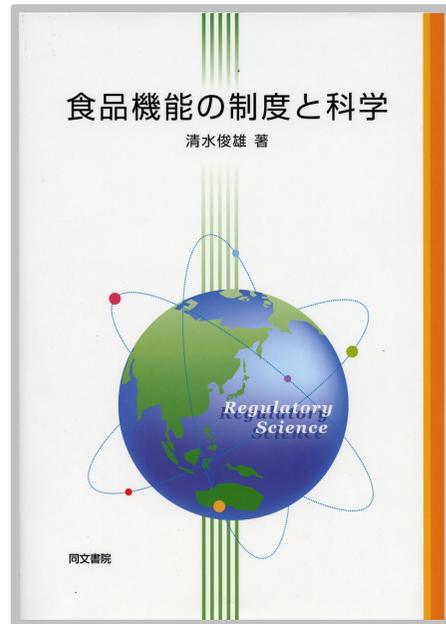
同文書院 ISBN4-8103-1327-1 定価 2,500 円+税 (2006)

本学のフードビジネス学科の看板教授である清水俊雄博士が、フードビジネス学科の授業で教科書としても使えるよう「食品機能の科学と制度」について書き下ろして下さった本である。

「特定健康保健用食品」などで皆さんにお馴染みの食品機能を科学として捉え、それをどのように制度化しているのかについて、日本の事情・歴史を詳しく、分かり易く、系統立てて説明し、また、諸外国ではこの制度はどのようになっているかについて比較して説明し、今後この制度が Regulatory Science として、どのように発展していくかについて、この分野の我が国の第一人者である著者のすばらしい見識を十分に披露している。

清水博士は東京大学農学部農芸化学科を卒業後、旭化成(株)食品研究所に勤務して、食品機能学を中心に研究され、その出来上がった商品を国の制度に載せるにはどのようにしたらよいかについて研鑽を続けてこられた方である。従って、当初からこの分野の業界団体の役員として厚生省と連携して制度化に関与し、厚生労働省になった現在でも厚生科学研究の分担研究者などで活躍しているという、この分野の第一人者の学者である。また関係する主な国際会議には日本を代表して出席し、日本の食品機能の制度をどのようにすべきかにつき見解を述べ活躍しておられる。

本書の構成は、科学に基づいた制度と制度を支える科学、すなわち Regulatory Science の重要性を訴え、科学的に実証された方法で機能と安全性を評価して一定の科学的基準に基づいて、許可または基準化することが必要との観点から出来ている。序章、第1章 健康機能の科学的根拠、第2章 食品の健康機能、第3章 食品の表示制度と科学的根拠、第4章 関連法規、第5章 海外の動向、第6章



食品機能の情報源、終章 Informed Choice を目指して、という構成である。

フードビジネス学科の教科書として良くできていると言うだけではなく、食品機能の制度と科学の関係を知りたい読者、あるいは「特定保健用食品」の開発や販売に従事する人たちへの啓蒙書として、この分野のバイブル的な書として今後高い評価を受けていく書である。

【本の紹介者】

奥村純市;図書情報センター長、教授



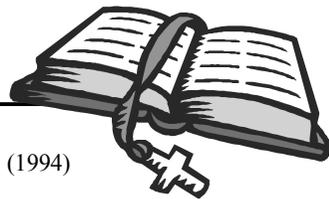
本の紹介, 原稿募集中!!

このページに掲載する本の紹介文を募集しています. お気に入りの本を紹介して下さい.

詳しくは, 図書館カウンターまで



『いま、女として』 金賢姫全告白本 上、下



金賢姫 著、池田 菊敏訳

文藝春秋 ISBN4-16-756501-3 定価(上下各)1,456 円+税 (1994)



1987年4月1日、大韓航空機が爆破され115名が亡くなるという事件が起きました。この本を書いた金賢姫はその爆破犯人の一人であり、北朝鮮の工作員であった女性です。

大韓航空機を爆破するまでの経緯、毒物を使い自殺を試みた時の様子。そして捕らえられ、裁判にかけられ死刑を宣告されるまでのいきさつ。しかし、大統領特別赦免により死刑が中止となり生きることとなってしまった、その時の心の動揺。工作員として教育されていく様子などはノンフィクション小説さながらですが、彼女の身の上起こった事実なのです。こういったことを含め彼女の数奇な運命が克明に書かれています。

爆破犯として彼女が捕らえ写し出された時とても驚きました。清楚で若く賢そうなこの人が、なぜこんな大それたことをしたのか、本当にこの人がそんなことをしたのか、まさかという疑問。私は一目見て、即座に彼女に興味を持ちました。

人はこの世に生を受けた時から人生が決まっているものなのでしょうか。生まれた場所、その環境や教育によって人格は作られてしまいます。それがたとえ正しくないものでも受け入れるしかありません。それも運命と割りきるしかないのでしょうか。たまたま北朝鮮に生まれ、そこで誤った教育を受けスパイとなり、ついには爆破犯となっ

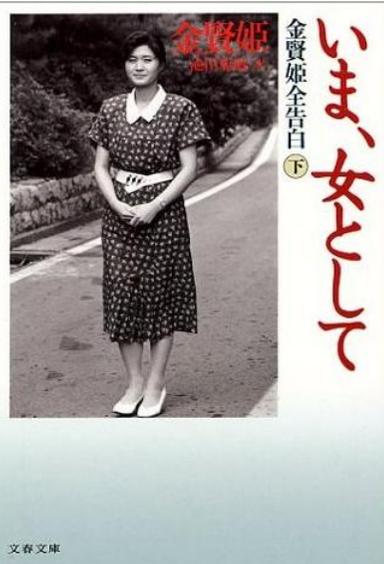
てしまいました。祖国のためと信じ、自分の命さえ投げ出したのに裏切られてしまった彼女。哀れとしか言いようがありません。

現在、少しずつではありますが北朝鮮の内情が分かってきました。拉致(らち)問題や核保有問題など

話題には事欠かかず、不透明で謎に包まれているという印象が強い国、北朝鮮。

ニュースを見て、一体どんな国なのだろうと興味をもった人は一度読んでみてはいかがでしょうか

外から見ただけでは分からない一般国民の様子など、考えさせられる点が多々あります。そして自由がどれほど幸せで大切なものなのか、また物があふれ贅沢に慣れきってしまい、それが当たり前と思っている今日の日本と比較し、自分の置かれている立場をもう一度考えてみませんか。思想、教育、生活すべてを自分で選択することが可能な日本。「自由という切符」を生まれながらに手にしている私達。この切符を使い、どこに向かってどう生きていくのかを考えるにはいいきっかけとなる一冊です。



【本の紹介者】

社会情報学科3年 加藤 直栄



↑ 事件当時の映像より

注: <http://gonta13.at.infoseek.co.jp/newpage123.htm> より取得

健康生活学部 フードビジネス学科 基礎演習 國友ゼミ 田中ゼミ

國友ゼミ 11 名と田中ゼミ 11 名の 2 年生 22 名は、健康栄養学科 4 年生江上ゼミの先輩たちや稲沢市青年会議所(JC)のみなさんと共に、「地産地消」をテーマに、まちづくり事業に取り組んでいます。このまちづくり事業は、稲沢市の特産物である米、なす、ほうれん草、そして、地元企業である株式会社オリエンタルのカレーソースを利用して、オリジナルカレーメニューを開発するという試みです。今回のセミナー紹介では、國友・田中ゼミのこれまでの活動と今後の活動予定を紹介します。(文:田中明子)



写真(左から): 國友・田中ゼミ生が試作したナスカレーライス
江上ゼミ生が開発したナッブルパイ、ナイスしゅーウマイ。



■ これまでの活動

- 4 月 ・ JC の定例会議に参加、富士宮焼きそば学会会長の講演を聴講しました。
- 5 月 ・ 各地の特産物について JC のみなさんとディスカッションを行いました。
・ 稲島町東畑地内の千両なす生産ハウスを訪ね、生産組合の方から説明を受けました。
- 6 月 ・ 江上ゼミ 4 年生が開発したオリジナルメニューの試作を手伝いました。
・ オリジナルカレーメニューの商品名を JC のみなさんとともに考えました。
- 7 月 ・ 稲沢の特産物や地産地消に関する広告冊子作成の準備を始めました。
- 8 月 ・ 5 つのグループに分かれて広告冊子作成のための取材を行いました。
・ 印刷所の方から印刷物の作成過程についての説明を受けました。
・ 広告冊子の担当ページのデザインを考えました。
・ 治郎丸高須町内のほうれん草生産ハウスで、生産組合の方から説明を受けました。
・ オープンキャンパスに参加した高校生の前で取材報告のプレゼンテーションを行いました。



← 稲沢市内のビニールハウスにて

NBSC サイエンスサークル

NBSC(名古屋文理サイエンスサークル)は、顧問の長谷川先生とともに活動しています。子供から大人まで楽しめる理科実験などのイベントの開催、情報科学・食品化学などの研究を通じて、地域の方々・子供たちとも交流を深め、今後も一層の活動が出来るように励んでいます。

これまでに、万博出展をはじめ色々なイベントに参加してきましたが、今回は、今年前半の活動報告と、間近に迫っている稲沢祭り・稲友祭への参加予定をお知らせし、みなさんをこのサイエンスサークルのメンバーにお誘いしたいと思います。(進藤)



2006 年前半の活動報告 :

6月11日 第6回 稲沢子どもフェスティバル(稲沢市勤労福祉会館)に出展

稲沢母親クラブらによる恒例のイベントに、去年に引き続き出展。今年は「名古屋文理大学サイエンスコーナー」を実施する広い会場をいただき、「おもしろ科学実験教室・ペットボトルで大実験！」と題して、身近にあるペットボトルを使った理科実験やクイズを13種類実演しました。情報文化・健康栄養の学生サークルメンバー40人余りで何度も実験を繰り返して準備し、国友・長谷川・小橋・佐原先生らの協力を得て、当日はアンコールを含めて4回も講演を行いました。地域の小学生や保護者の方が大勢集まってくれ、大変ご好評をいただきました(写真参照)。新聞記事にもなりました。実験の後には、実験原理や手順をイラストで説明した「種明かし本」も配り、サイエンス実験についての新たな発見をして楽しむ事が出来ました。

↓子どもフェスティバル当日の様子



今後の活動予定 :

- ・ 稲沢祭り 10月21日(土) 情報メディア学科出展『タイケンノバ』に参加
- ・ 稲友祭 10月28日(土) 『おもしろ科学実験教室2006』に参加



メンバー募集 :

これを読んでちょっとでも『あっ たのしそう』と思った人は代表か顧問教員にご連絡ください。

代表 : 情報文化3年 進藤 広之 (1104092@nagoya-bunri.ac.jp)

顧問 : 彭 徳子(paeng@nagoya-bunri.ac.jp)、長谷川聡(hasegawa@nagoya-bunri.ac.jp)

図書館情報センターから

デジタルコンテンツコンペ へ切迫る！

図書館情報センター主催(同窓会・自治会後援)の第2回デジタルコンテンツコンペの作品応募締切りが10月13日(金)と迫っています。

大学のWebサイトを飾るFlashを学生諸君がデザインし、素晴らしい作品を表彰するというこの企画、入賞以上の全員に素敵な副賞も用意されています。

大学のTOPページを自作Flashで飾ってみたいという方は是非応募してください。詳細は、図書館カウンターにてお尋ねください。

稲友祭参加企画
デジタルコンテンツ・コンペ 2006

FLASH 作品コンテスト

作品集

展示コーナーについて

1F 展示ケースの10月の展示品を紹介します。

稲沢市の文化財

東畑廃寺跡から出土した瓦

(稲沢市教育委員会所蔵)

東畑廃寺は、市の北東部(名鉄国府宮駅北1Km 付近)稲島町石畑ほかに位置し、古代尾張国における重要な水上交通路であった三宅川(現在は大江川)右岸に立地した。

寺の創建は壬申の乱(672年)の前後頃。

(参照)稲沢市 Web ページ: 広報いなざわバックナンバー(2001. 11. 15)みんなのひろば



図書館の利用について

・ <特別貸出> 情報文化学部4年生は卒業研究用に通常の3冊2週間の貸出に加えて、5冊1ヶ月の特別貸出を利用できます。

・ <書籍購入申込> 図書館に所蔵して欲しい書籍について申込ができます。1週間~1ヶ月で申込から貸出可能です。申込んだ書籍は、予算と必要性に応じて購入しますので希望に沿えない場合もあります。

以上の2点については、図書館カウンターにて、その旨申し出てください。

・ <マナーに注意> ブラウジングコーナーのソファで寝転んでいる人は慎んでください。



平成18年 10月

編集: 名古屋文理大学図書館委員会

発行: 名古屋文理大学図書館センター

〒492-8520 稲沢市稲沢町前田 365

TEL: 0587(23)2400 FAX: 0587(21)2844

e-mail: toshokan@nagoya-bunri.ac.jp

